

令和7年  
2025年

4月2日  
水曜日

第11683号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料（前納）  
年間 82,080円  
（税込み）  
6か月 42,120円  
（税込み）

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



スターゼンカップで豪華副賞贈呈……P6~7

## 注目のヘッドライン

VMCプラットフォーム設置、動物用ワクチンの安定供給を目指すー農水省

…詳細はP2

背番号29（ニク）が全力投球全肉連が小冊子「お肉で元気」など作成・配布

…詳細はP2~3

▶ VMCプラットフォーム設置、動物用ワクチンの安定供給を目指すー農水省……………P2

▶ 背番号29（ニク）が全力投球全肉連が小冊子「お肉で元気」など作成・配布……………P2~3

▶ 「大いなる活躍と無限の可能性に期待する」ニッポン火腿グループに405人が入社……………P3

▶ 「コンプライアンスを常に考えてほしい」伊藤ハム米久HDが254人を迎え入社式……………P4

▶ 「挑戦する気持ちを持ち続けてほしい」丸大食品グループが71人の新入社員を迎え入社式……………P4~5

▶ 千葉県の養豚農場で豚熱患畜、国内97例目ー農水省……………P5

▶ スターゼンG入社式、横田社長「常に周りの全てに感謝を忘れずに仕事を」……………P6

▶ スターゼンカップ閉幕、今年も選手たちに和牛サーロインなど豪華副賞贈呈……………P6~7

▶ [加工品仕向肉量・2月] 国産、輸入の合計数量は2万9684tで1.9%減……………P8

▶ 日本食鳥協会関西支部、大阪食鳥会館で情報交換会開く……………P8~9

▶ プリマハムが「よしもと劇場貸切公演ご招待キャンペーン」を実施……………P9

▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 1日……………P10

▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 1日……………P11

食の感動体験を創造することで  
世界中の人々と食をつなぎ続ける



<https://www.starzen.co.jp/>



<https://www.sfoods.co.jp/>

## VMC プラットフォーム設置、動物用ワクチンの安定供給を目指すー農水省

農水省はこのほど、令和6年11月に策定した「2024動物用ワクチン戦略中間取りまとめ」の目標達成に向けた取り組みの一つである動物用医薬品メーカー、関係団体、研究機関および国による産学官の連携体制「VMCプラットフォーム」の立ち上げに際し、関係者に向けてキックオフイベントを開催した。

畜産現場では、海外からの重大疾病の侵入リスクの増大、薬剤耐性菌対策では事前対応型の防疫への移行など、ワクチンのニーズが高まっている。一方、国内の動物用医薬品販売高は約1555億円(令和5年)。世界の動物用医薬品市場の約40分の1と規模は非常に小さく、開発における国際競争力の減退、不採算品目の整理、終売による取扱品目の縮小、設備投資の意欲減退などが課題となっており、畜水産業の生産現場が求めているワクチンの迅速な開発、実用化、安定供給に向けた体制の構築が急務である。

政府は令和6年、食料・農業・農村基本法の見直しにおいて、「家畜の伝染性疾病の発生予防・まん延防止」を新たに創設した。さらに、農水省では、動物用ワクチン戦略策定のための検討会を同年6月に設置。計4回にわたって議論し、11月に中間取りまとめを公表した。

同戦略では、産学官の連携を促進するため、メー

カー・団体、研究機関、行政機関による動物用医薬品産学官連携(VMC)プラットフォームを設立。行政による研究開発支援の事業、研究機関による新たな知見や実用化のメド、生産現場におけるニーズの掘り起こしなど、それぞれの立場から情報を発信し、共有することで、関係者の交流を活性化し、ワクチンの迅速な開発や安定的な供給体制を構築することを目的としており、先頃行われたキックオフイベントには100人以上が参加した。今後は、テーマごとにワーキンググループでの議論を進めた上で、年に1回のペースで報告会を行う予定だ。

農水省消費・安全局畜水産安全管理課飼料安全・薬事室の古川明室長は「これまで、消費・安全局は動物医薬品の承認審査など規制に関する業務が主体であった。動物用医薬品の安全確保は大前提だが、必要なワクチンの安定供給など産業的な部分を支えていかなければ、家畜の疾病などに太刀打ちできなくなってしまうという思いから、今回進めさせていただいた」と話した。

VMCプラットフォームの下、関係者が連携し、ワクチンの安定的な流通、不測事態時の製造体制の構築、輸出による市場拡大などを図ることで、食料安全保障や近隣アジア諸国も含めた畜水産物生産の持続可能性の強化に貢献していくことを目指す。

## 背番号 29 (ニク) が全力投球 全肉連が小冊子「お肉で元気」など作成・配布

全国食肉事業協同組合連合会はこのほど、独立行政法人農畜産業振興機構(atic)の助成を受け、令和6年度「国産食肉等新需要創出緊急対策事業」の一環で、小冊子とポスターを作成・配布した。

小冊子「お肉で元気」は、「今こそ健康・長寿に直球勝負!」と銘打ち、野球になぞらえて作成。栄養面やおいしさの面で、肉が大谷翔平選手のように活躍することをアピールしている。攻守に光る肉のタンパク質、必須アミノ酸、脂質などの栄養素を初めのページで説明し、次ページ以降では和牛肉を取り上

げ、口どけや軟らかさ、おいしさの源とされるオレイン酸、加熱方法による肉のおいしさの変化などを紹介。また、低需要部位を使用した8品(牛肉、豚肉の各4品)の健康料理のレシピも掲載している。

なお、全肉連は、国産食肉の栄養成分や機能性に関する科学的検証を神戸大学、一般(社)食肉科学技術研究所に委託して実施。和牛の赤身肉、低需要部位に関して、加熱調理の違いが物性や栄養成分、香り成分に与える変化を明らかにして、幼児や高齢者をはじめとする消費者にとって、栄養価が損なわれず

咀嚼しやす<sup>そしゃく</sup>い加熱調理方法などを検証。とりわけロースト調理の検証・分析を行い、さらに低コストの牛肉として関心が高まっている、再肥育した経産和牛も対象に取り組んだ。検証の内容は、冊子にも盛り込まれている。

全肉連は冊子とポスターを組合員に配布して、食

肉専門店を利用する機会が多い高齢者や子育て世代をターゲットに、健康・長寿に対するお肉の効用などの情報を店頭から発信していく。それにより、健康・長寿をキーワードとした需要の創出、そして国産食肉の需要拡大を図る。

## 「大いなる活躍と無限の可能性に期待する」 ニッポンハムグループに 405 人が入社

ニッポンハムグループは1日、東京都内で2025年ニッポンハムグループ入社式を執り行った。同社では今年度、グループ全体で405人(うち、日本ハム51人)の新入社員を迎えた。井川伸久社長(写真)による訓示の内容は次のとおり。

新入社員の皆さん、ニッポンハムグループへの入社、誠におめでとう。405人の新しい仲間を迎え、大変うれしく思う。本日から皆さんは学生から社会人となる。この変化は肩書が変わるだけでなく、責任感や心構えにも大きな変化をもたらす。学生時代には主に自分の学業や進路について責任を持っていたが、これからは自分の行動が組織全体やお客さまに影響を与えることを認識してほしい。プロフェッショナルとしての自覚を持ち、責任感を持って仕事に取り組んでもらいたい。また、自主性と継続する意思が求められる。課題を自らみつけ、その解決策を模索する姿勢が重要だ。失敗してもくじけず、成功に向かって挑戦を続けてほしい。

ニッポンハムグループは、「『食べる喜び』を基本テーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する」企業理念の下、事業領域を拡大し成長してきた。「時代を画する文化を創造し、社会に貢献する」とは、単に商品やサービスを提供するだけでなく、生活に不可欠なものを創造するという。代表商品である「シャウエッセン」も、発売当時は国内にはなかったが、現在は日本の食卓を代表する商品となっている。また最近では「エスコンフィールド HOKKAIDO」がこれまでにない街づくりを取り入れたボールパークとして展開している。ニッポンハムグ

ループを取り巻く環境は急速に変化しているが、皆さんもこの企業理念をしっかりと認識し業務に取り組んでもらいたい。



皆さんに期待したいことは「挑戦」。若い皆さんには無限大の可能性があると思っている。目標を掲げ、失敗を恐れずチャレンジを繰り返し続けてほしい。失敗しても次の成長につながれば良い。また、職場の上司や先輩と積極的にコミュニケーションをとることも大切。質問や意見を恐れずに発信して、それに対するフィードバックを求める姿勢で臨んでほしい。

最後に、戦国武将の武田信玄の言葉に「真剣だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言い訳が出る」という言葉がある。与えられた役割に対して真剣に向き合い、問題解決の知恵を出すよう取り組み、困難に直面したときには、それらを自らの成長のチャンスと捉えて乗り越える力を養ってほしい。

皆さんが各職場で力を発揮し、明るく前向きに挑戦することを強く願っている。社会に対してどのような価値を提供できるのかを常に考え、行動してほしい。共に成長し、ニッポンハムグループの未来を築いていこう。皆さんの大いなる活躍と無限の可能性に期待している。

## 「コンプライアンスを常に考えてほしい」 伊藤ハム米久 HD が 254 人を迎え入社式

伊藤ハム米久ホールディングスは1日、東京都新宿区のTKP市ヶ谷カンファレンスセンターと兵庫県神戸市の三宮研修センターで254人の新入社員を迎え、入社式を執り行った。宮下功社長(写真)による新入社員へ向けたメッセージ(要約)は次のとおり。

[はじめに] 新入社員の皆さん、入社おめでとう。私が社長として新入社員を迎えるのは、10回目となる。毎回、皆さんへの期待とグループ社員としての矜持を話しているが、今年も当社グループとして変わらない価値観や、仕事に対する取組姿勢・心構えについてお話する。

[仕事の効率化を率先して進める] 日本国内は、長期的に人口が減少していく。昨年の出生数は、70万人を割ったと推定されているが、皆さんが生まれた2000年代前半から中盤にかけての出生数は110万人前後だった。政府としても、少子化対策にさまざまな手を打ってはいるが、今後の結婚適齢期・出産適齢期の人口は確定しており、今後数十年にわたり日本の人口が減少することは明らかだ。こうした中、人口減少・人手不足の時代に適応した、効率的な生産・物流・販売体制に移行できる企業のみが生き残ると考える。デジタルネイティブ世代の皆さんには、デジタル技術を活用した仕事の効率化を、率先して進めることを期待している。

[新入社員の賞味期限は1年] 仕事で分からないことや、明確でないことを、遠慮せず恥ずかしがることなくきける特権を新入社員は持っている。もちろん、2年目3年目になっても、さらにはベテラン社員になっても、社長になっても知らないことや分からないことはある。知らないことや分からないことは、周りの人に教えてもらったり、調べたりしなければならない。仕事において、分からないままにしておくことや、仕事の意味

を理解しないで業務を続けることは、大きな事故や損失につながりかねない。また、仕事の意味を理解することは、仕事の効率化や生産性改善にもつながる。新入社員の特権をフル活用し、周囲の先輩から知識を吸収し、時にはAIも使いこなし、大きく成長されることを期待している。



をフル活用し、周囲の先輩から知識を吸収し、時にはAIも使いこなし、大きく成長されることを期待している。

[コンプライアンスは全てに優先] 当社グループの理念は、「私たちは事業を通じて、健やかで豊かな社会の実現に貢献します」。そして、「フェアスピリットと変革への挑戦を大切にし、従業員とともに持続的に成長する食品リーディングカンパニー」をビジョンとして掲げている。グループ理念やビジョンには、①フェアスピリットの精神を大切にすること②従業員の成長を企業発展のベースとし、社会貢献する企業グループでありたい—との思いを込めている。フェアという価値観は、会社や個人の評価のベースとなるもの。その中でも、コンプライアンスは全てに優先するものであり、仕事をしていく上で、最も大切にしてほしい価値観であり、絶対に外してはいけないルールだ。コンプライアンス違反をして稼いだ利益は、非難されることはあっても決して評価されない。皆さんも仕事をしていくにあたり、常にコンプライアンス上の問題がないかどうか、考え、行動してほしい。そして、正々堂々と自分の判断や行動が説明できる社会人になられることを、心より望んでいる。

## 「挑戦する気持ちを持ち続けてほしい」 丸大食品グループが 71 人の新入社員を迎え入社式

丸大食品は1日、大阪府高槻市の太陽ファルマテックホールで2025年度入社式を執り行った。今年度は

同社グループ全体で71人が入社した。佐藤勇二社長(右上写真)による祝辞の内容は次のとおり。

新入社員の皆さん、入社おめでとう。数多くの企業の中から、丸大食品グループで働くことを選択していただき、大変うれしく思う。会社を代表して、皆さんを歓迎するとともに、お祝いの言葉を申し上げる。

皆さんが就職活動を行われた昨年は、元日に発生した能登半島地震をはじめ、度重なる豪雨や、地震など、自然災害の多い年だった。一方で、インバウンド需要の回復が、国内景気を緩やかに押し上げるなど、明るい兆しもみられた。

しかし、依然として、国際情勢は不安定であり、原材料や資材価格、物流費の高騰、さらには物価高による消費者の節約志向の高まりなど、当社グループを取り巻く経営環境は、厳しい状況が続いている。

このような環境の下、当社が「食を通じて、人と社会に貢献する企業」として成長を続けていくためにはスピード感を持って、時代の変化やニーズに、柔軟に対応していくことが必要だ。例えば、共働き世帯や、単身世帯の増加に伴う食事の変化や、調理時間の短縮といったニーズに応え、簡便性を高めた、「食」の新たな価値を提供し続けることも重要。

また、労働力不足に対応する商品の開発やサービス強化など、常にお客さまの立場で物事を考え、実践する姿勢が、信頼を築く基盤となり、丸大食品グループの、さらなる成長を支える鍵となる。

企業活動は、持続可能な社会の発展に貢献していくことも求められる。当社では、食育活動やスポーツ支援活動、子ども食堂への食材提供などの、社会貢献活動にも取り組んでいる。このように、お客さまや、取引先はもとより、株主、従業員、地域社会、すなわち当社グループを取り巻く、全てのステークホルダーの期待に応えることが、われわれの使命だ。

さて、当社は今年で創業から68年目を迎える。これまで数々の逆風や、環境の変化に直面しながらも、知

恵を出し合い、難局を乗り越えてきた、創業社長をはじめとする、諸先輩方の、努力のたまものだ。その伝統を大切にしながら、

現在当社は「変革」というスローガンの下、従来のやり方にとらわれず、「食」の新しい価値創造に、果敢に挑戦し続けている。

そして、その「変革」の原動力となるのは、まさに皆さん一人ひとりの力だ。皆さんの積極的な行動が、当社グループを未来へと導く、大きな一歩となる。挑戦を重ねることが、皆さん自身の成長につながり、やがては会社全体の、発展を支える力となる。ぜひ、失敗を恐れず、新しい発想と、挑戦する気持ちを、持ち続けてほしい。個性や能力を存分に発揮し、仕事を通じて、自己成長を実現していただくことを、期待している。

また、分からないことや、疑問に感じたことがあれば、職場の上司や先輩に相談してほしい。皆さんの素直な問いかけが、職場全体に新たな気付きをもたらし、より良い職場環境づくりにも、つながる。企業の成長は、従業員一人ひとりの、成長の積み重ねによって、成し遂げられる。皆さんの活躍が、当社グループの未来を、形作っていく。これから、それぞれの職場で、若さあふれるエネルギーを発揮し、大きく飛躍されることを、心より期待している。

結びに当たり、皆さんの今後の活躍と、健勝をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とする。本日は、入社おめでとう。



## 千葉県の養豚農場で豚熱患畜、国内 97 例目一農水省

農水省は3月31日、千葉県旭市の養豚農場で国内97例目となる豚熱の患畜が確認されたことを発表。これを受け同省は「農林水産省豚熱・アフリカ豚熱防疫対策本部」を持ち回りで開催し、今後の対応方針を決定した。

なお、発生農場の飼養状況は約5480頭。このほか

疫学関連農場は、発生農場から10日以内に移動があった子豚で3農場(千葉県匝瑳市、約150頭▷千葉県香取市、約50頭▷茨城県茨城町、約100頭)、10日以内に患畜と接触のあった繁殖豚で1農場(茨城県城里町、約70頭)となっている。

## スターゼンG入社式、横田社長「常に周りの全てに感謝を忘れずに仕事を」

スターゼングループは1日、総勢86人の新入社員を迎え、ザ・プリンスパークタワー東京での会場、さらにウェブ配信によるオンライン参加とのハイブリッド形式で入社式を開催した。横田和彦社長(写真)のあいさつは次のとおり。

本日スターゼングループに入社される新入社員の皆さん、入社おめでとう。社会人としての門出を迎えられた皆さんに、グループを代表して、心よりお祝いを申し上げます。今、私たち業界を取り巻く環境は不安定な国際情勢や原料価格の高騰、物流費や人件費の上昇、ライフスタイルの多様化などで大きく変化している。スターゼングループにおいても、この取り巻く環境の変化に対応すべく掲げた重要経営課題の解決に向け、日々取り組みを進めている。

少子高齢化の進む日本での事業再構築と、新興国を中心に急伸する海外での旺盛な食肉需要を取り込むべく、現在、国内外で将来に向けた積極的な投資を検討し、実行している。具体的には、当社はすでに51の国と地域に輸出が可能な認定工場を保有しているが、この拡充と併せ、日本産牛肉の海外営業を強化している。また、昨年12月には、豪州にある牛の肥育農場を取得し、日本からの和牛輸出だけでなく、豪州の自社牧場で育てた牛肉を、日本だけでなく全世界に販売する事業をさらに強化していく。

さて、スターゼングループには、約3千人の働く仲間がいる。この一人ひとりが方向性を同じく仕事をするための道しるべとして、昨年4月1日に新しい経営理念と、この経営理念を実現するためのブランド・ビジョンを策定した。私たちが目指すのは、単に食を提供する企業ではなく、食を通じて感動や喜びを届ける存在になること。ここは私たちが日々仕事をしていく中で非常に大切であり、もう、これくらいで良いといったことはなく、飽くなき探求心での臨む終わりのない旅のようなものだ。皆さんが配属される各職場で、この

経営理念を実現するための周知、また浸透活動を進めてゆくので覚えておいてほしい。

ここで、私から社会人として新たな一歩

を踏み出す皆さんに何点かアドバイスしておきたい。第一に、皆さんが配属された部署だけで、スターゼングループが成り立っているわけではないということ。公私ともに物事を広く捉え、常に前向きでさまざまなことに挑戦し、経験を積み重ねてほしい。次に、常に周りの全てのものに感謝の気持ちを忘れずに仕事をしてほしい。グループの主力商品である食肉や食肉製品は、生活に欠かせない重要な食品であり、尊い家畜の命を頂戴して作られている。だからこそ、商品を丁寧に扱い、常に感謝の気持ちをもって日々仕事をしていくことが大切になる。最後に自身の強みを知り、それを磨き続けることを大切にしてほしい。配属された部署でしっかりと経験を積むこと、常に謙虚な姿勢で新しい知識を吸収し、プロとしてのスキルを身につけ、自己成長に努めてほしい。

今日、社会人として一歩を踏み出すことができたのは、今まで育ててもらったご両親やお世話になったすべての方々のお陰だ。そのの方々への感謝の気持ちを持ちながら、立派な社会人として成長することが何よりの恩返しになる。皆で力を合わせて、個々の強みをさらに磨き、取引をしてよかった、働いてよかったと一人でも多くの人たちから言われる会社にしていこう。皆さんの今後のご活躍を心より祈念する。



## スターゼンカップ閉幕、今年も選手たちに和牛サーロインなど豪華副賞贈呈

スターゼンが特別協賛した「スターゼンカップ第55回日本少年野球春季全国大会」(主催=公益

財)日本少年野球連盟、報知新聞社、愛称=ボーイズリーグ)が3月26~31日にかけて、東京都大田区の

大田スタジアムなどを舞台に開催された。同大会は1971年から長きにわたり行われてきた、春の全国ナンバーワンを決定する大会。全国の予選を勝ち抜いてきた小学生の部12チーム、中学生の部45チームが連日熱戦を繰り広げた。30日に小学生の部、31日に中学生の部の決勝戦が行われ、小学生の部では大阪都島ボーイズ(大阪)が稲沢中央ボーイズ(愛知)を下し、優勝。中学生の部では愛知尾州ボーイズ(愛知)が紀州ボーイズ(和歌山)を破り、春の王者となった。

スターゼンでは、次代を担う少年の健全育成や未来のプロ野球選手を発掘し、育てる場として重要な大会であると認識しており、食の未来を担う子供たちを支援したいという考えのもと、ボーイズリーグの「野球を愛好する少年たちに正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて次代を担う少年の健全育成を図る」という目的に賛同。2023年から冠スポンサーとしてサポートし、育ち盛りの選手たちに喜んでもらえるよう、豪華な食肉製品の副賞も提供している。

31日の閉会式では、スターゼンから副賞として優勝チームに「黒毛和牛さつまビーフのサーロイン丸ごと1本」、準優勝チームに「豪州産長期穀物肥育麦黒牛のサーロイン丸ごと1本」を贈呈。副賞の内容が発表されると、観客席からは豪華な商品にどよめきが起き、横田和彦社長(上写真右)から目録が手渡され、選手たちは皆大喜びだった。さらにスターゼンMVP賞を獲得した選手には「黒毛和牛さつまビーフのヒレ丸ごと1本」が贈られたほか、準決勝で優勝チームに惜しくも敗退したチームに贈られるスターゼン社長賞として「ハンバーグ山盛り300個」が、同じく準決勝で準優勝チームに敗退したチームに贈られるスターゼン敢闘賞として「マックカード3万円分」が、さらに参加賞として表彰チーム以外の全チームに「骨付きソーセージ1ケース」が贈呈された。

また、26日の開会式では池尻尊広上席執行役員兼営業本部長が「スターゼンは、皆さんにとって身近なところでは、日本マクドナルドのハンバーグパティを製造しており、皆さんも普段から当社の商品を食べいただいているのではないかと思います。スター



ゼンは食肉を中心とした食品会社であり、毎年好評をいただいている最高級の和牛など、今大会も当社自慢のお肉をたくさん用意しているので、ぜひ楽しみにしてほしい」と呼びかけ、さらに「先日東京ドームで行われたメジャーリーグの開幕シリーズでは、大谷翔平選手のホームランにじびれた。日本の野球が世界に通用することを証明してくれた。皆さんが将来そうした夢舞台で活躍してくれることを切に願っている」とあいさつ。なお、池尻本部長は今春の選抜大会でも優勝を果たすなど、全国屈指の高校野球の名門である横浜高校の野球部OBであり、高校時代に恩師である野球部元監督の渡辺元智氏から説かれた「人生の勝利者たれ。白い玉を追いかける中にも人生がある。この素晴らしい野球を通じて、人生の勝利者になってほしい」という言葉を紹介。「皆さんもぜひ人生の勝利者になってほしい」と呼びかけ、大舞台に臨む選手たちを激励した。その後選手宣誓に続いて行われた始球式では池尻本部長が毎年雨天に見舞われたため、3年越しとなった投手の大役を務め(下写真)、見事な投球に観客席からは大きな拍手が贈られた。

**【加工品仕向肉量・2月】 国産、輸入の合計数量は2万9684 tで1・9%減**

日本ハム・ソーセージ工業協同組合がまとめた2月の加工品仕向肉量によると、国産と輸入を合わせた合計数量は2万9684t(前年同月比1・9%減)と前年同月を下回った。このうち国内物が8554t(0・2%増)と増加し、輸入物は2万1130t(2・8%減)と減少している。25年累計は6万953t(1・7%増)。このうち国内物は1万7248t(4・3%増)、輸入物は4万3705t(0・7%増)で推移している。

畜種別にみると、豚肉は国内物が5187t(5・6%増)、輸入物が1万9648t(1・8%減)、合計2万4835t(0・3%減)で前年を下回った。また、鶏肉は国内物が3264t(7・9%減)と減少し、輸入物も713t(9・7%減)となり、合計では3977t(8・3%減)と前年を下回った。成牛肉は844t(15・2%減)で、国内物が98t(33・2%増)、輸入物が745t(19・0%減)となった。

シーズンドポークなどを含む豚肉調製品は8482t(9・4%減)となっている。

2025年2月分の食肉加工品仕向肉量

(単位：トン、%)

区分		仕向肉量	対前年同月比	2025年累計	対前年同期比
豚肉	国内物	5,187.4	105.6	10,399.1	108.5
	輸入物	19,647.6	98.2	40,501.3	101.7
	合計	24,835.0	99.7	50,900.4	103.0
成牛肉	国内物	98.2	133.2	219.9	145.5
	輸入物	745.4	81.0	1,688.4	89.4
	合計	843.6	84.8	1,908.3	93.5
子牛肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.6	75.0	1.1	78.6
	合計	0.6	75.0	1.1	78.6
馬肉	国内物	4.0	190.5	7.4	176.2
	輸入物	7.2	141.2	13.0	131.3
	合計	11.2	155.6	20.4	144.7
綿羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	15.5	103.3	33.4	98.5
	合計	15.5	103.3	33.4	98.5
山羊肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.5	166.7	0.5	100.0
	合計	0.5	166.7	0.5	100.0
鶏肉	国内物	3,264.4	92.1	6,621.4	97.4
	輸入物	712.8	90.3	1,467.5	89.7
	合計	3,977.2	91.7	8,088.9	95.9
合計	国内物	8,554.0	100.2	17,247.8	104.3
	輸入物	21,129.6	97.2	43,705.2	100.7
	合計	29,683.6	98.1	60,953.0	101.7
うさぎ肉	国内物	0.0	0.0	0.0	0.0
	輸入物	0.0	0.0	0.0	0.0
	合計	0.0	0.0	0.0	0.0
魚肉	国内物	1.0	76.9	2.3	92.0
	輸入物	10.7	103.9	21.3	103.4
	合計	11.7	100.9	23.6	102.2
【参考】					
豚肉調製品		8,481.7	90.6	17,389.8	94.9
うちシーズンドポーク		8,476.0	90.7	17,378.1	95.0

注) 1. 仕向肉量は食肉加工工場より報告された数量である。  
資料：日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ「食肉加工品等流通調査」  
(公益社団法人日本食肉協議会委託事業)

**日本食鳥協会関西支部、大阪食鳥会館で情報交換会開く**

日本食鳥協会関西支部(辻貴博支部長=写真)は3月27日、大阪市此花区の食鳥会館で、日本食鳥協会関西支部理事会および3月情報交換会を開催した。会の冒頭、辻支部長は「寒暖の差の変化が激しく、体調管理が難しい季節だが、鶏の飼育状況も今年は苦戦しており、なかなか良い成績が出てこない。ただ、相場は例年より(需要期を過ぎても)よく保っている印象で、生産者の立場からするとコスト高の中、

非常にありがたい。ただ、生産のみならず、荷受、小売含めてコスト吸収できる業界にしていかなければならない」「業界の課題



は、春から夏、秋の入り口あたりまでの需要をいかに喚起するか。単価の高いモモ肉を夏場に食べてもらうために、メニュー開発や切り方、味付けの仕方など、さらに検討していく必要がある」とあいさつ。続いて、令和7年度事業計画案および令和7年度収支予算案について審議が行われ、いずれも原案どおり承認された。

そのあと、各部会が最近の生産・販売状況についての報告に移った。報告要旨は以下のとおり。

【生産加工部会】「生育状況としては昨年から、商品化率と工場の廃棄率がやや上昇して生産コストが高騰している。また、農場ではひなの価格の値上げ依頼も届いており、輸送費などについても価格改定の依頼がきている状況。農場の成績が少し落ちている現状では、飼養管理を委託している農家に価格転嫁はできないため、上昇するコスト分は処理場のほうが全て被る状況になっている」「飼料米の確保が少し難しくなっている。生協などでは餌の中に20%入れていると言う銘柄も生産しているが、確保できる量と価格に合わせて添加量の縛りを検討していく必要がある」「寒波の影響で開放鶏舎では生育が落ちている。また、新年度からのコストアップは避けられない状況。特に人件費上昇が大きい。全てのものが上がっている中、なんとかやり繰りしてやっていくしかない」「今の鶏は寒いと非常に飼いづらくなっているように感じる。肉に栄養が回るように育種改良されてい



るので、羽が薄い。だから寒さに弱いのではないかと」

【荷受部会】「春先まで全体的に順調であったが、直近はモモ肉の売れ行きが少し落ちてきている。手羽モトは動いているが、相場が高いということもあり、やや伸び悩んでいる」「3月に入ってから気温の上昇もあり、鍋物需要が減ってモモ肉の動きが落ちた。手羽サキは代わりによく動くようになった。ムネ肉については堅調だが、現状の相場が高いので数量に関しては前年比で少し減少している」「モモ肉の動きが鈍った分、ムネ肉とササミは動き出している。手羽サキ、砂肝などは4月以降も不足感は続きそう。手羽モトは関西で売れ行きが悪いが、関東では好調。そのため、関西の余剰在庫は全て関東に送っている」「カタ肉がチルド・冷凍ともに不足気味。チルド優先のため、凍結に回せる玉がない。他社も同様だときいている」

## プリマハムが「よしもと劇場貸切公演ご招待キャンペーン」を実施

プリマハムは4月1日～5月31日(応募締切6月3日、当日消印有効)にかけて、老若男女楽しめる人気のよしもとお笑いライブ「よしもと劇場貸切公演ご招待キャンペーン」を実施する。ルミネ the よしもと(東京・8月23日土曜日11時開演予定)へは200組400人、なんばグランド花月(大阪・8月2日土曜日10時開演予定)へは400組800人、合計1200人を招待し、キャンペーンの当選者は、漫才・諸芸・お楽しみ抽選会など、笑いの詰まった楽しい時間を過ごすことができる。また、家庭で楽しめる「鹿児島県産黒毛和牛

ロース焼肉(320g)」(100人)や、プリマハムの新商品詰め合わせ(100人)が当たるコースも用意した。

応募方法は、対象商品のバーコードを「よしもと劇場貸切公演」(東京コース・大阪コース)は4枚、肉コースは3枚、新商品コースは2枚を1口として、専用応募はがきまたは郵便はがきに貼り、必要事項を記入の上、応募する。主な対象商品は、香薫あらびきポークウインナー(90g×2、510g)、スマイル UP! ロースハム3連、スマイル UP! ハーフベーコン3連、ギルティソーセージ ガーリックバターチーズほか。

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 4月1日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 88頭	高値	3,510	2,809	2,434	2,012	-
		安値	2,156	2,118	2,001	2,002	-
		平均	2,683	2,313	2,190	2,007	-
	雌 B 3頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	2,003	2,166	-	1,429	-
	去 A 181頭	高値	3,268	2,436	2,222	-	-
		安値	2,227	2,128	2,135	-	-
		平均	2,536	2,279	2,178	1,637	-
	去 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 6頭	平均	-	-	1,538	1,415	
		頭数	-	-	2	4	
	雌 C 2頭	平均	-	-	-	1,314	
		頭数	-	-	-	2	
	去 B 34頭	平均	-	1,708	1,579	1,431	
		頭数	-	6	13	15	
去 C 5頭	平均	-	1,529	1,476	1,362		
頭数	-	2	1	2			

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	416 391	827 945	- 70.5	(競り)	(相対)	
				-	1	57

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌 A	高値	2,720	-	1,282	1,260	-
	安値	-	-	-	1,206	-
和 去 A	高値	-	2,449	1,759	-	-
	安値	-	-	-	-	-
乳 雌 B	高値	-	-	-	908	897
	安値	-	-	-	866	831
乳 去 B	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
交 雌 B	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
交 去 B	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	740	824	734	626	553
	安値	647	572	556	432	443
	平均	683	604	585	555	475
	頭数	( 4)	( 278)	( 373)	( 222)	( 68)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	517
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( 1)

[大阪食肉卸売市場] 4月1日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,662	2,316	-	-	-
(頭数)	( 14)	( 11)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和 去 A	2,610	2,268	2,075	-	-
(頭数)	( 23)	( 17)	( 5)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,536	1,574	1,384	-
C	-	-	1,566	1,439	-
交雑去 B	-	1,722	1,584	-	-
C	-	-	1,499	1,434	-
豚	592	584	543	498	429

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	4月1日	3月31日	(4月累計)
豚	61,300	64,900	61,300
成牛計	4,670	4,200	4,670
和牛雌	1,160	960	1,160
和牛去勢	1,370	1,410	1,370
乳牛雌	810	500	810
乳牛去勢	510	370	510
交雑雌	400	290	400
交雑去	420	660	420

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 4月1日

	1,499円	(前日 1,474円)
東京		
大阪	1,571円	(前日 1,556円)

[豚・全農建値] 4月1日

上	中	取引頭数	市況
598円	578円	1,095頭	強もちあい

と畜 売買	牛 69頭	豚 149頭	牛概況	もちあい
	牛 105頭	豚 147頭	豚概況	急落

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 4月1日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況	
北海道 [セ]	616 (616)	- (-)	5,236	-	もちあい	
仙台 [中]	541 (538)	485 (485)	567	84	小反発	
栃木 [地]	- (571)	- (545)	-	-	休市	
茨城 [地]	606 (602)	575 (584)	1,427	565	反発	
群馬 [地]	585 (582)	508 (489)	2,057	406	小幅高	
さいたま [中]	594 (585)	577 (574)	213	209	反発	
東京 [中]	604 (591)	585 (574)	827	945	反発	
横浜 [中]	598 (614)	572 (584)	663	638	下押し	
山梨 [地]	657 (-)	644 (-)	173	92	続伸	
浜松 [地]	※2026年度の市場再編に伴い上場頭数等が減少、4月1日から当面の間豚競り市場は休止					
名古屋 [中]	561 (558)	530 (515)	960	258	もちあい	
京都 [中]	645 (648)	613 (633)	123	100	もちあい	
大阪 [中]	584 (608)	543 (588)	149	136	急落	
神戸 [中]	812 (-)	862 (-)	-	140	-	
岡山 [地]	688 (702)	683 (676)	237	213	弱気配	
広島 [中]	592 (593)	562 (-)	70	85	もちあい	
福岡 [中]	623 (580)	591 (544)	540	100	反発	

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 3月25日～3月31日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,770,421 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,123	1,156	1,213	1,150	89,530
うで	745	789	839	795	124,258
ロース	1,042	1,103	1,231	1,115	140,760
ばら	1,166	1,209	1,247	1,206	189,698
もも	780	799	853	807	171,510
ヒレ	1,058	1,133	1,256	1,136	14,451
セット	946	1,020	1,063	1,016	1,040,214

◇近畿圏 総重量 648,784 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,284	1,327	1,273	43,425
うで	713	751	794	758	111,714
ロース	1,112	1,252	1,288	1,214	79,844
ばら	1,188	1,234	1,286	1,238	99,634
もも	719	756	799	754	149,815
ヒレ	1,157	1,218	1,271	1,215	9,671
セット	932	1,004	1,095	1,010	154,681

[食鳥正肉日経相場] 3月31日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社) ※日経4月1日付より東京8社、大阪2社に集計対象社数を変更。

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	691	770	917	197
ムネ	374	420	532	165

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	690	777	1,010	3
ムネ	352	415	570	3

[農水省統計情報部食鳥市況] 3月31日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,008	611	550	600	650
安値	576	330	290	360	350
平均	745	395	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

◆業界動向がデータでわかる  
数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

◆畜産・食肉業界の動向大全  
日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉  
ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

銘柄豚肉  
ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

◆国内で唯一、  
最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

◆あなたの常識を強固にする  
今さら聞けない肉の常識

平野正男 著  
鏡 晃 監

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

◆知識を豊かにする

食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方  
牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳  
DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

## 株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。